



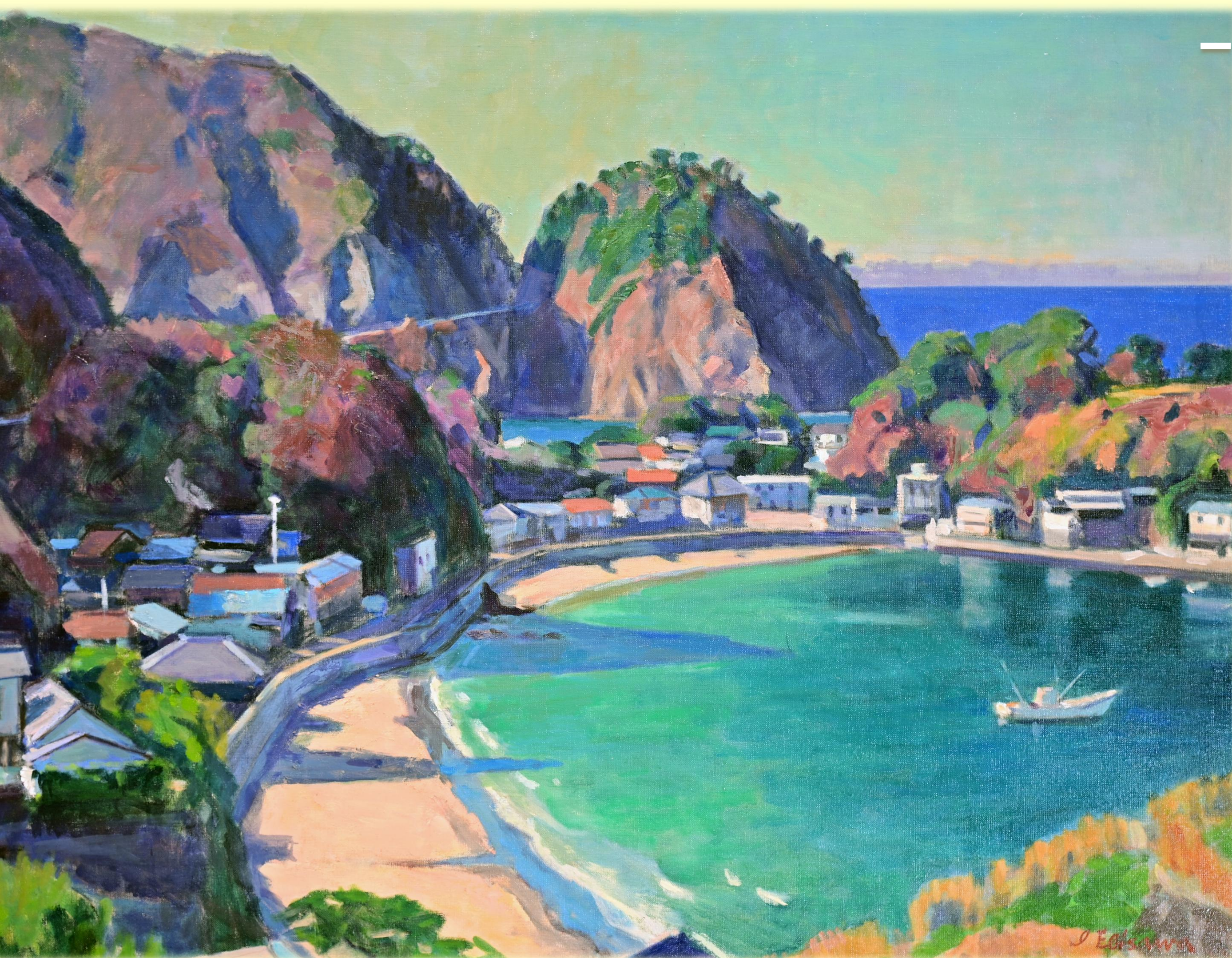
星襄一《一樹銀》1978年 版画

秋の常設展

同時代を生きた作家たち

－ 晩年の作品から －

星 襄一 Joichi Hoshi
海老澤 巖夫 Iwao Ebisawa
佐藤 忠良 Churyo Sato



海老沢巖夫《西伊豆の村》1981年 油彩画



佐藤忠良《わかば》1992年 彫刻

2026年10月1日(木)～12月27日(日)

【開館】 9:00-20:00 【閉館】 月曜日（祝日の場合は翌平日）【入場】 無料

オーエンス八千代市民ギャラリー 常設展示室

O-ence Yachiyo Public Gallery Permanent Exhibition Room

千葉県八千代市村上2510 Tel.047-406-4116

<https://www.yachiyo-library-gallery.jp/gallery/>

同時代を生きた作家たち

- 晩年の作品から -

星 襄一 *Joichi Hoshi*
海老澤 巖夫 *Iwao Ebisawa*
佐藤 忠良 *Churyo Sato*

1910年代初めの同時期に生まれた星、海老澤、佐藤は
大正、昭和、平成と激動の時代を生き抜きました

彼らが晩年にたどり着いた境地とは、いったいどのような
ものだったのでしょうか

版画、油絵、彫刻と表現方法は異なりますが、同じ時代に生き、積み重ねた
年月は作品に表れています

本展では、八千代市の収蔵作品から
3人の作家の晩年に注目し、その足跡
を辿ります

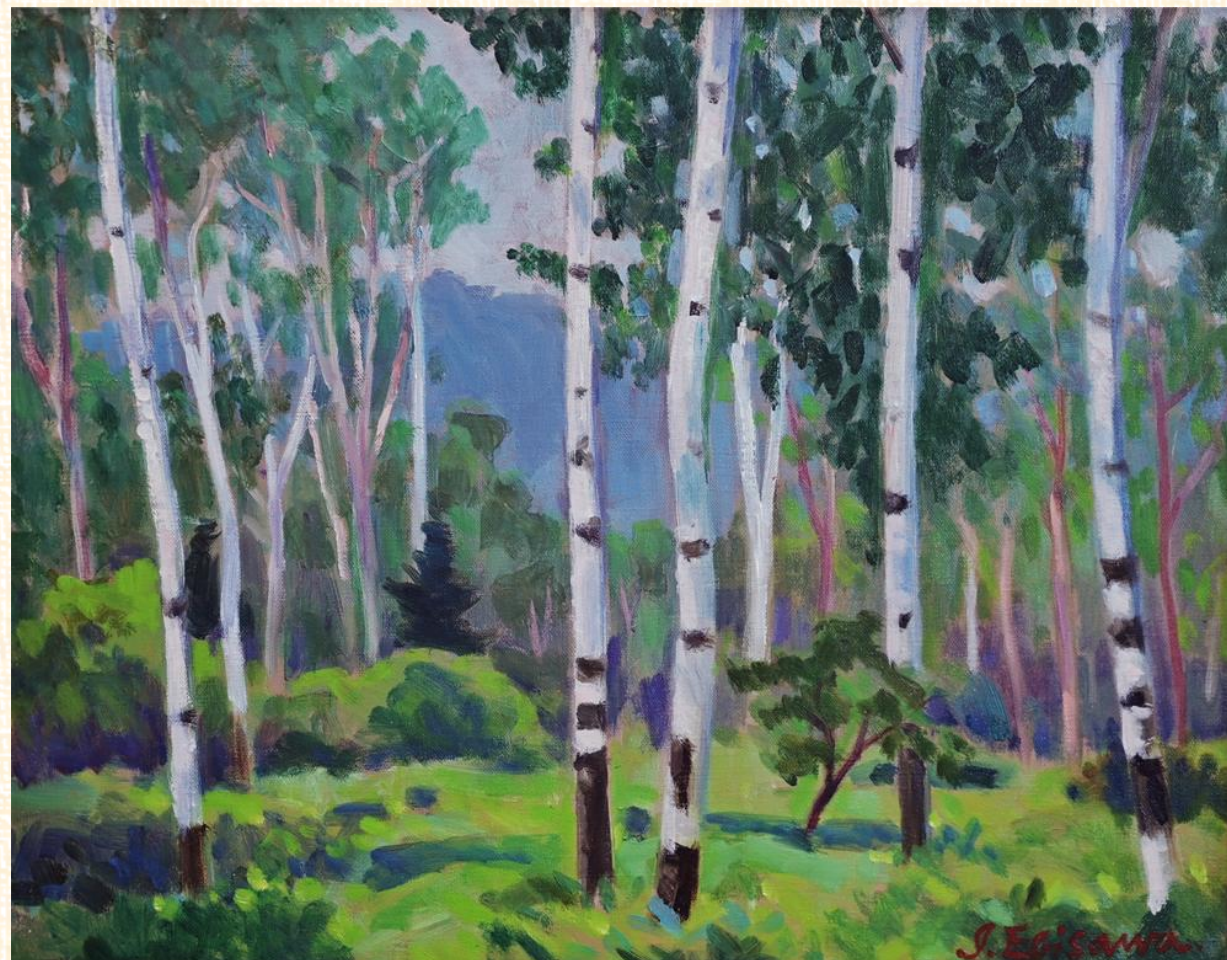
現代に生きる私たちが、彼らの辿り
着いた地に触れるとき、自らのところに
何を見るのでしょうか



星襄一《大樹早春(小)》1978年 版画



佐藤忠良《うれ》彫刻



海老澤巖夫《赤城の白樺林》1982年 油彩画

観覧料:無料

八千代市の収蔵作品から、年4回常設展を開催しています

交通案内

- 東葉高速線「村上駅」より徒歩10分
- 東葉高速線「八千代中央駅」より 徒歩約15分
バス約5分
(八千代中央駅発→米本団地行(中央図書館 経由)「中央図書館」下車)
- 京成本線・東葉高速線「勝田台駅」より
バス約10分
(勝田台駅発→米本団地行「郷土博物館入口」下車
降車バス停より徒歩約8分)
- ◆県立八千代広域公園駐車場(有料・260台)が併設されています

オーエンス八千代市民ギャラリー 常設展示室

O-ence Yachiyo Public Gallery Permanent Exhibition Room

千葉県八千代市村上2510 Tel.047-406-4116
<https://www.yachiyo-library-gallery.jp/gallery/>

佐藤忠良 宮城県にて誕生 1912
星襄一 新潟にて誕生 1913
海老澤巖夫 茨城にて誕生 1915

1912 大正元年
1914 第一次世界大戦参戦

1923 関東大震災
1926 昭和元年

星襄一 台南師範卒、現地にて13年教職に就く 1932
佐藤忠良 東京美術学校（現・東京藝術大学）彫刻科に入学 1934

1941 太平洋戦争開戦
1945 第二次世界大戦終結

星襄一 台湾から引き揚げる 1946

佐藤忠良 シベリア抑留後帰国し制作を始める 1948
星襄一 武蔵野美術学校卒、木版画を独習 1956

佐藤忠良 絵本『おおきなかぶ』刊行 1962

1964 東京オリンピック

星襄一 「樹」シリーズに取り組む 1971
海老澤巖夫 勝田台に居住 1971

1972 沖縄返還

星襄一 勝田台に居住 1976
星襄一 没 1979

佐藤忠良 フランスの国立ロダン美術館で個展を行う 1981
村上橋のブロンズ像「太陽」と「緑」を制作

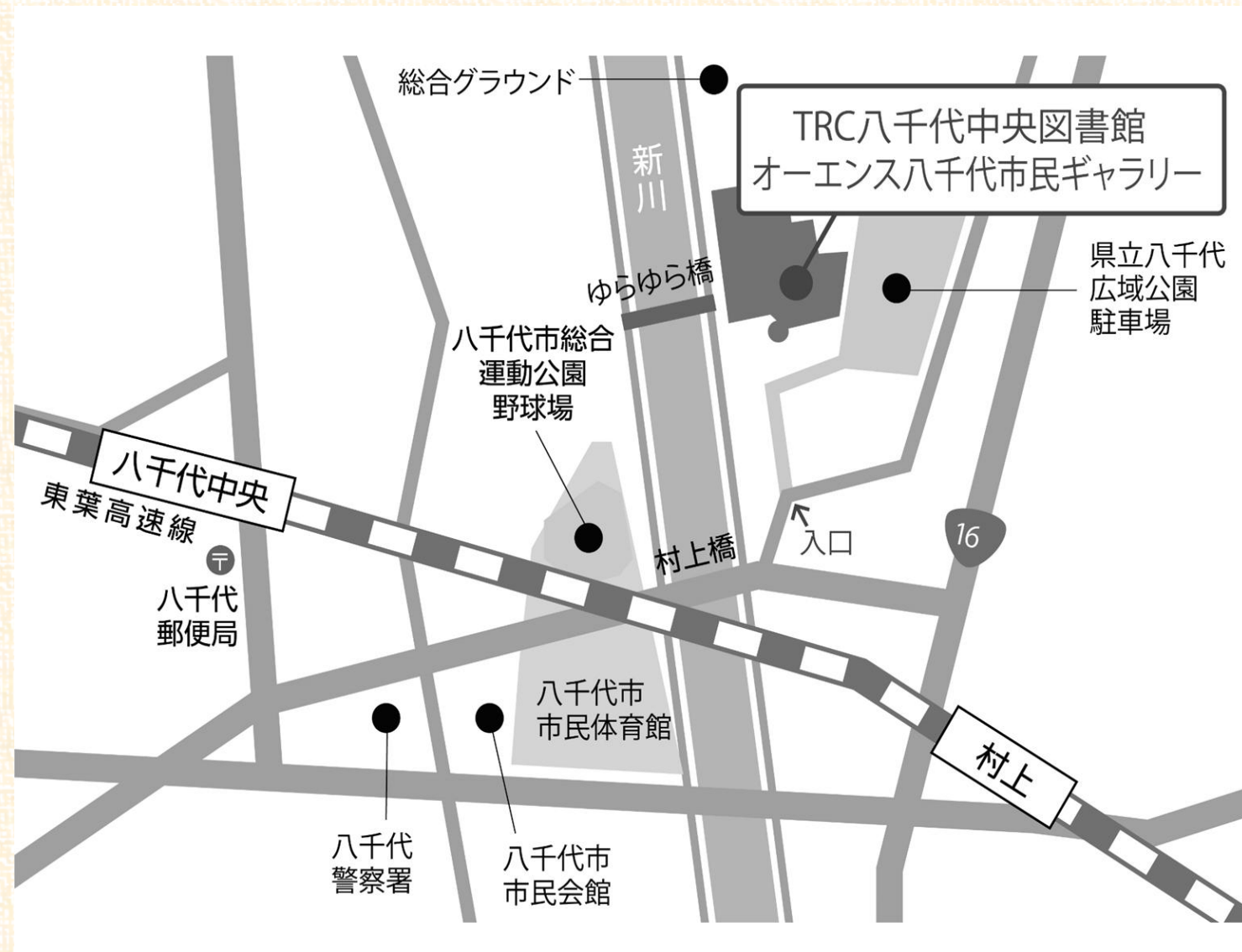
海老澤巖夫 没 1985
星襄一 「樹シリーズ」149点が八千代市に寄贈される 1987
(最終所蔵作品354点)

1989 平成元年

宮城県美術館に佐藤忠良記念館 開館1990

1995 阪神淡路大震災

佐藤忠良 没 2011 2011 東日本大震災



ギャラリーHP



アクセスmap